

企業広報大賞

<選考基準>

社会（マスコミ、消費者、投資家など）から期待され求められているものを見極め、それを経営に反映させるとともにステークホルダーに対し、広告宣伝だけではなく広報活動を通じて企業活動の的確な情報を発信・伝達し、社会に貢献している企業

受賞企業：カルビー株式会社

【受賞理由】

“ポテチショック”（ジャガイモ不足により、ポテトチップス商品を休売したこと）というクライシスを自社内の課題に留まらせず、地方創生と結びつけ戦略的に対外発信を行った。広報と商品開発が連動し、マーケットのニーズを捉えながら、社内外に対して的確な情報発信につなげている。本業に限らず、ダイバーシティや女性活躍といった全企業共通のテーマに対しても、高い先見性を社会に提示しリードしている。そうした活動が、企業価値の向上に結果として表れている。

企業広報経営者賞

<選考基準>

経営トップ自らが広報の重要性を認識し、社内外の情報によく耳を傾け、経営環境や経営方針などについて、社会（マスコミ、消費者、投資家など）や従業員に語り、コミュニケーションを積極的に推進している経営者

受賞者：オオハシ ヨウジ大橋 洋治 ANAホールディングス株式会社 相談役

【受賞理由】

従業員との対話を欠かさず、ロイヤルティーを引き出す強固な組織を作り上げた。社会の声に耳を傾け、「あんしん、あったか、あかるく元気！」という企業イメージを自ら率先して確立した。また、経済界全体の立場からの発言・情報発信にも尽力した。

受賞者：タカ タ アキラ高田 明 株式会社ジャパネットたかた 創業者

【受賞理由】

多様な媒体を活用し、優れた情報発信を展開している。企業の真価が問われる危機時には、スピード感ある対応を行い、ブランドイメージを維持・向上させた。「人の幸せに寄与するため」という理念を、自らの言葉で発信している。近年は、地方創生に貢献するなど、揺ぎのない哲学を持って夢を語る姿は世間の人々に好印象を与えている。

企業広報功労・奨励賞

<選考基準>

広報活動に携わり企業広報の発展に功労が大きく、奨励に値する独創的な企業広報を実践している広報実務者およびチーム

受賞者：^{シキモリ アキコ}飾 森 亜樹子 日本電気株式会社

コーポレートコミュニケーション部長

【受賞理由】

30年以上に亘って広報業務に携わり、企業の変革の見える化と企業ブランドに貢献してきた。グローバルコミュニケーションを常に意識し、バランス感覚を保ちつつ国内外に発信している。女性広報の草分け的存在として、広報人材の育成にも努めている。

受賞者：^{ノムラ ヒデキ}野村 秀樹 森ビル株式会社 広報室長

【受賞理由】

21年間、広報として企業のブランド価値向上に貢献している。常に都市づくりという仕事の社会的意義を発信し続け、誠実なコミュニケーションを軸に、時代の変化を捉えた戦略的な広報活動を展開している。また、積極的に地域や子どもたちなどと接点を持ち、“社会との対話”を実践している。

選考委員

(敬称略・五十音順)

毎日新聞東京本社	経済部長	齊藤 信宏
(株)イー・ウーマン	代表取締役社長	佐々木 かをり
日本テレビ放送網	経済部長	佐藤 圭一
プレジデント社	『プレジデント』編集長	鈴木 勝彦
日経BP社	『日経ビジネス』編集長	東 昌樹
日本経済新聞東京本社	経済部長	藤井 一明
シンクタンク・ソフィアバンク	代表	藤沢 久美
朝日新聞東京本社	経済部長	丸石 伸一
読売新聞東京本社	経済部長	矢田 俊彦

以 上